



光明山古墳 (10次調査) 現地説明会資料

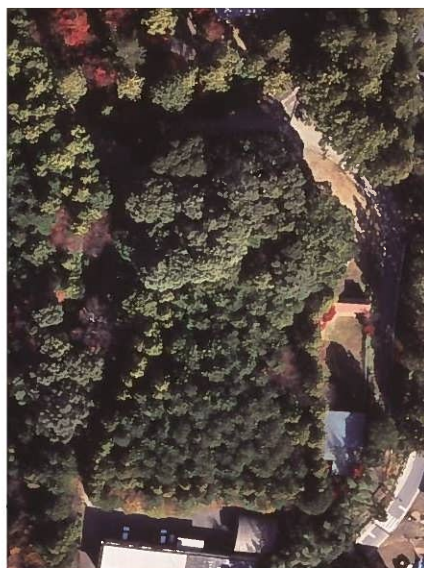
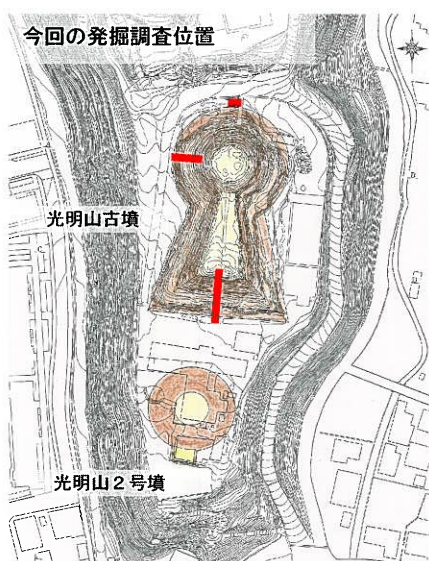
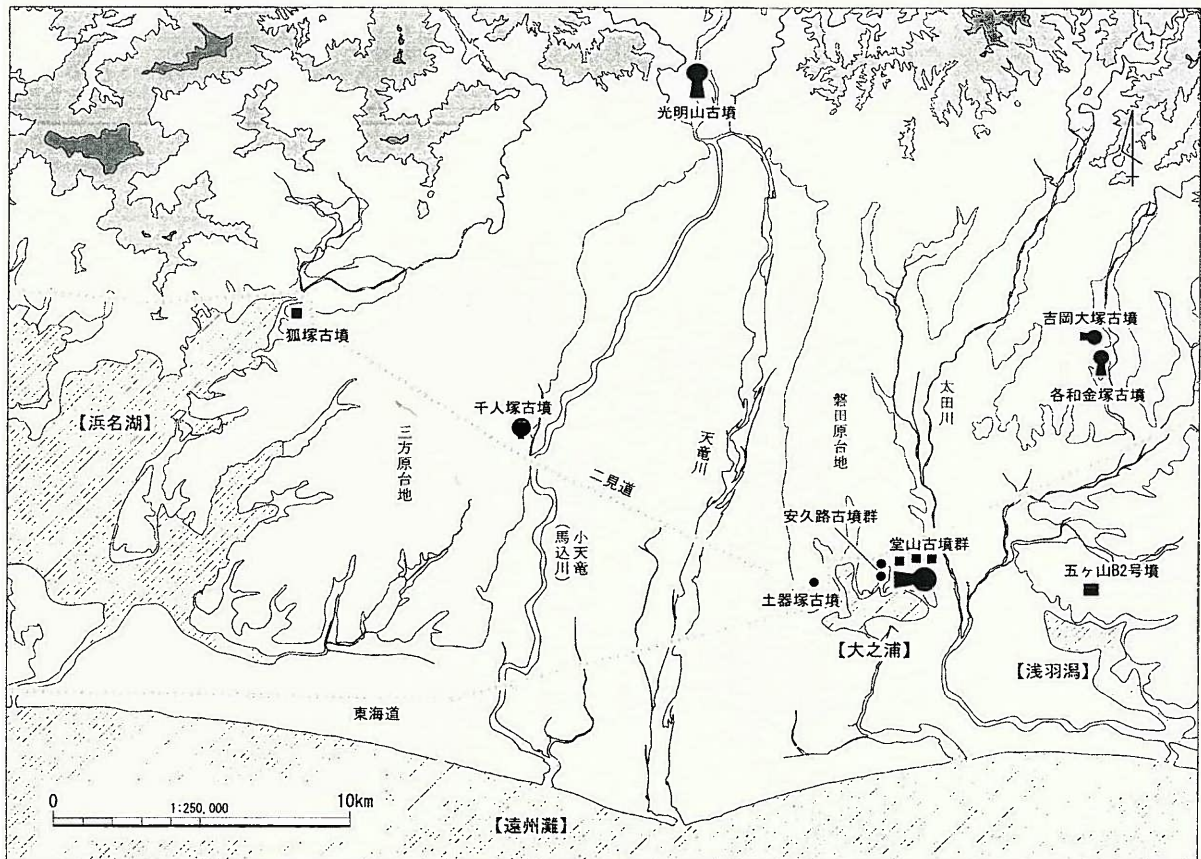


2018年11月23日

浜松市文化財課

光明山古墳の発掘調査で判明したこと

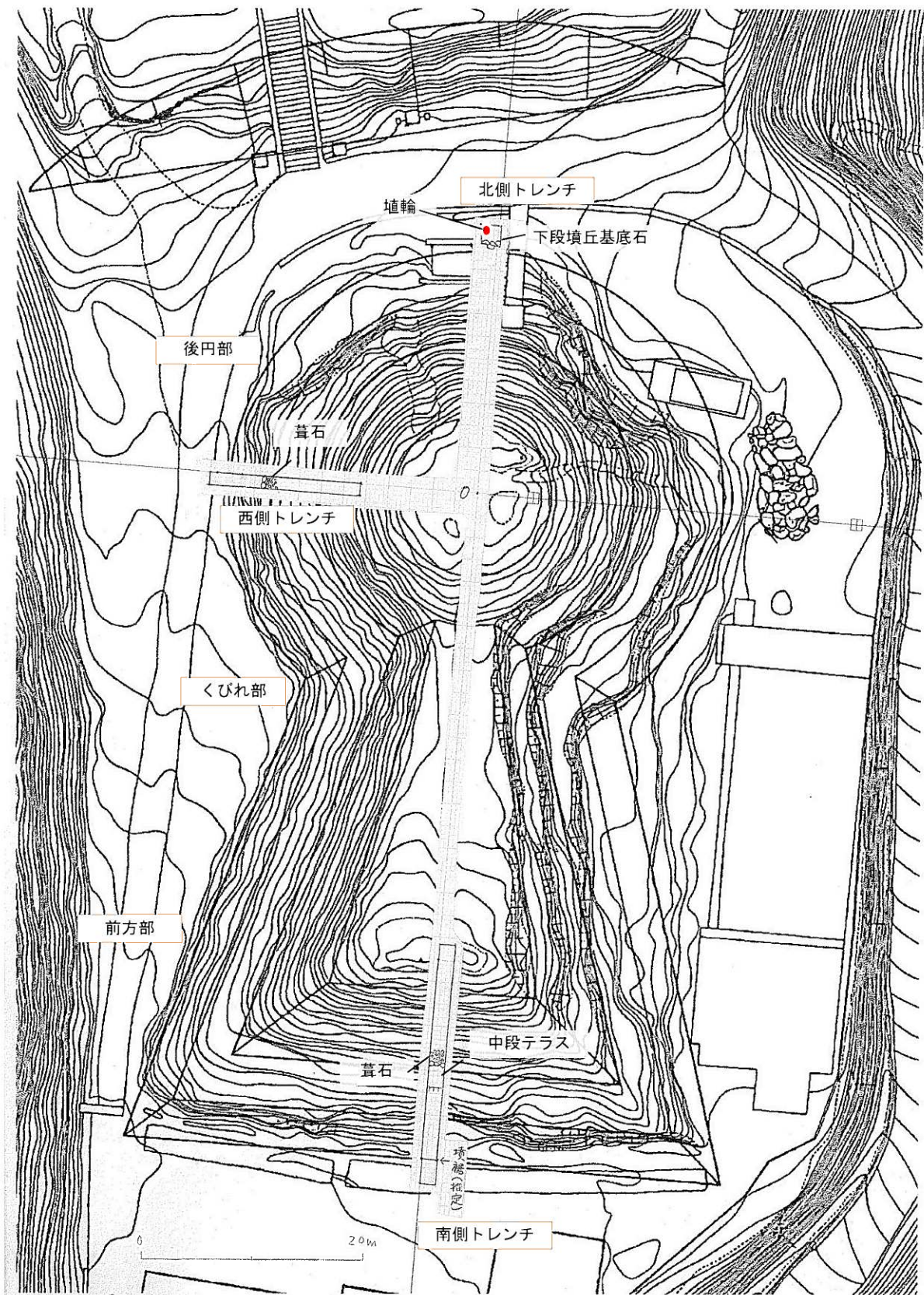
光明山古墳（天竜区山東）は浜松市内で最も大きな古墳であり、この古墳が造られた5世紀中ごろに限定すると、静岡県内でも最大規模を誇ります。2018年4月に実施した発掘調査によって、2段に築かれた墳丘の斜面には葺石が施され、墳丘の平坦面には埴輪をめぐらしていることが明らかになりました。また、2018年11月に実施した発掘調査によって、光明山古墳の後円部北側の端部が判明したほか、前方部も後円部と同様に2段につくられていることも新たに分かりました。この調査により、光明山古墳の全長は83mであることが確定しました。また、後円部北側の調査区では朝顔形埴輪が良好な状態で出土しており、この古墳に樹立された埴輪の全体形状がうかがえるようになりました。



光明山古墳の位置と環境

光明山古墳は天竜川をさかのぼった浜松市天竜区に築かれています。周囲には大型の古墳がない点は立地環境の大きな特徴です。

光明山古墳の南側には光明山2号墳と呼ばれる古墳があります。光明山2号墳では全面的な発掘調査が行われ、直径32mの円墳で南側に造り出しと呼ばれる方形の平坦面が附属していることが明らかになっています。



光明山古墳トレンチ配置図

前方部の1ヶ所と後円部の2ヶ所において、墳丘の構造を把握するためのトレンチ（幅1～1.5m）を設けて発掘調査を行いました。前方部と後円部の先端を把握した結果、光明山古墳の全長は83mであることが新たに判明しました（従来は測量調査の結果から82mと想定していました）。また、前方部も後円部と同様に2段に築かれていることが発掘調査によって初めて確認できました。



南側トレンチ（前方部の葺石）

南側トレンチでは、前方部上段の葺石と基底石、中段のテラス面を確認いたしました。前方部下段の墳丘表面は削られていましたが、地形造成の特徴から前方部先端が推定できます。



西側トレンチ（後円部西側の葺石）

後円部の西側では、上段の葺石と基底石を確認いたしました。古墳造営前の地形表面が中段テラス面に相当することが判明し、古墳の造成手法が想定できるようになりました。



北側トレンチ

北側トレンチでは、後円部下段の基底石を確認し、後円部先端の位置が確定しました。



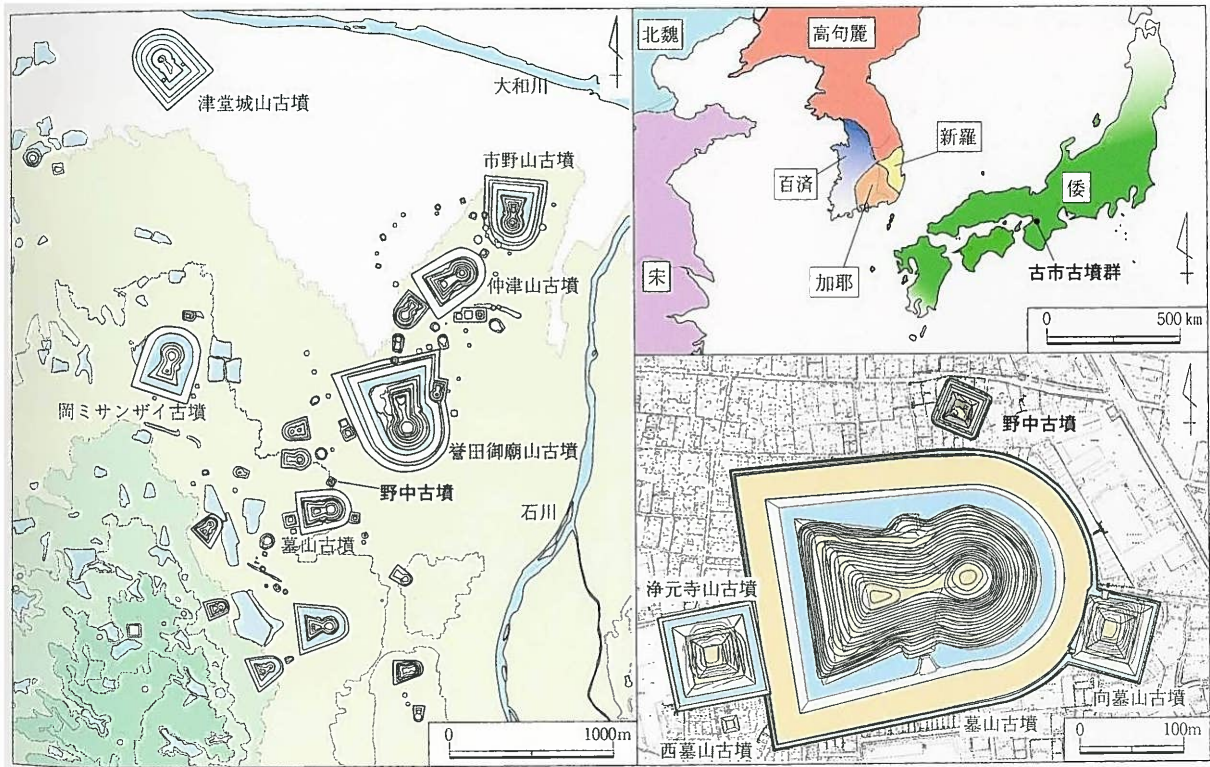
埴輪が出土したようす

北側トレンチの外側では朝顔形埴輪が良好な状態で出土しています。

西暦	時期区分	和暦	須恵器	埴輪	土師器	都田川(浜名湖)流域				天竜川西岸		天竜川東岸		太田川流域			原野谷川流域		朝川流域							
						湖部	井伊谷	細江・都田	浜崎南部	三方原	内野浜北	天竜	磐田原東	磐田県各地南郡		中・上流	下流	中・上流	西川							
300	前期	I			I																					
	中期	II				II																				
500	III				III																					
600	IV				IV																					

遠江における古墳の移り変わり

静岡県西部地方にあたる遠江でも多くの前方後円墳が築かれています。全長 80m を超える大型古墳は 4 基しかありません。古墳が構築された 5 世紀中頃に限れば、光明山古墳は静岡県内でも最大の大きさです。



畿内大型古墳群の分布と測量図（『野中古墳と「倭の五王」の時代』大阪大学出版会より）

現在の大阪府や奈良県には、全長 300m を超えるような超大型の前方後円墳が知られています。巨大前方後円墳は墳丘を三段につくり、周囲には水堀をめぐらせます。光明山古墳の形はこうした巨大古墳と共通する部分があり、設計図を共有していた可能性が考えられます。



光明山古墳と墳形が似る近畿の巨大前方後円墳

左：上石津ニサンザイ古墳 右：菅田御廟山古墳